

食生活から国際理解を広げよう

－日本とアメリカの食事の比較を通して－

広島大学附属東雲小学校 教諭 宮本 真由美

(1) はじめに

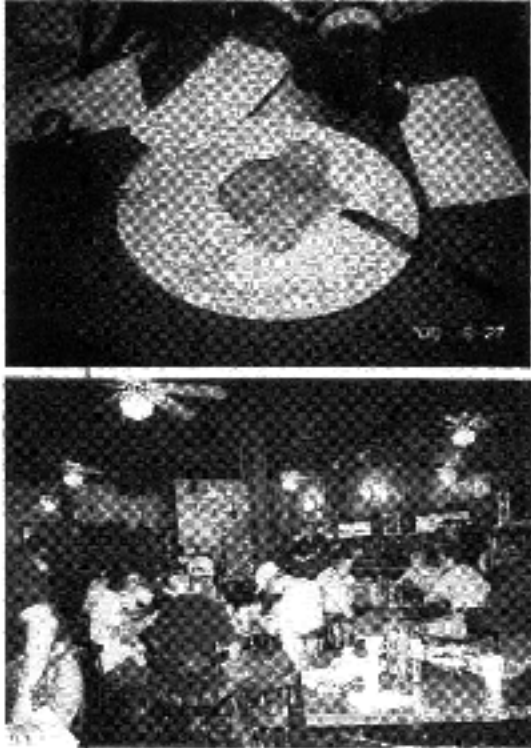
食べることは生きること、そして食生活はその国の文化を表している。


学校生活においても昼食は成長期の子どもたちにとって欠かすことのできない関心事である。そこで、アメリカと日本の小学生で食事のとり方を比較し、相違点や共通点を明らかにしていく。その中で、それぞれの国の特徴やよさについて考えていきたい。このことを通してお互いの国を知るきっかけとなり、国際理解や交流へとつなげていくことができるのではないかと考えた。


(2) 研究の概要


- ① 児童の食事のとりかたに関するアンケートを日米で実施し、比較研究することで相違点や共通点を明らかにする。
- ② 学校での昼食（カフェテリア）でのようすを観察する。
- ③ アメリカ研修中の食事を観察し、日本との違いを感じ取る。
- ④ それぞれの食事の様式におけるよさについて整理する。
- ⑤ 日本の食事の特徴や良さを生かした献立を作り、アメリカの人を招く計画を立てる。

(3) 現地調査日程とその主な内容

日時	日程・場所	主な内容	協力者
3月26日 (日曜) 9:30	朝食をとるためにバンで移動 	大学内のブラウンカフェが日曜のため閉店。田舎の典型的なレストランとされる店へ連れて行ってもらう。そこは、満席に近いほどの客が入り、活気があった。普段は、日曜日なので、教会の帰りの昼頃が多いのに今日は早くから客が多いとロイスさんは驚いていた。 パンケーキがおすすめと店の人が愛想よく言ったので、「スペシャルパンケーキセット」を注文。パンケーキ2枚、卵2個、ハムかベーコンかソーセージを選ぶようになっていた。メニューを見ると、野菜類は全くなかった。朝食で野菜を食べる習慣はないようだ。味は、全体的に塩辛く感じた。(パンケーキも)	ロイス教授
12:30	1900年代バイオニア村へ行く。	昔の農家の家が再現してあった。トウモロコシ貯蔵庫や麦を作る機械などの道具、耕地など見る事ができた。	
14:00	チェロキー美術館を訪れる。	チェロキー族のインディアンの歴史や生活などが展示してあった。インディアン手作りの民芸品なども売られていた。	

17:30	WCU地区歓迎の会	コンタクトパーソンのコックス先生夫妻と校長先生に会い、ワインとチーズで乾杯。	ボルドー学長、大学や政府の高官
18:00	日本の茶会の紹介	矢野先生がおてまいをして、着物を着た小野先生が客として振る舞う。英語で説明も加えた。	各学校の校長先生や教諭
18:40	夕食（ビュッフェ）	コックス先生夫妻とボルドー学長夫妻、親切な夫妻と同席し、会食をする。肉や野菜、サラダフルーツ、デザートなど日本とよく似ていた。ただ、デザートがとても甘いのに驚いた。	
19:30	ボルドー学長、ハイヤー衆議院、オリバー州長の挨拶の後、WCUのゴスペルコーラスの歓迎の歌。そして、日本の先生へみやげが1人ずつ手渡された。	お返しに小野先生が挨拶され、記念品を渡した。その後、日本からお返しに「花」の歌を鹿江先生のクラリネットと共に披露する。	
3月27日 (月曜) 8:00	朝食（ブラウンカフェテリア）	バイキングスタイル（3.8\$）店員が注文を聞いてくれる。どれを頼んでも量が多く、スクランブルエッグもマッシュポテトも2〜3杯すくって入れてくれる。「少しだけ」で丁度良い。やはり野菜はほとんどなかったが、メロンやグレープフルーツなどの果物はあった。	
9:00	メディアセンター（NCCAT）の見学	アメリカの教育システムについての概要説明を聞く。	ヘンリーロングさん ケイシーハリードクター
10:00	フェアビュー小学校を見学する。	校長先生が学校を案内して下さる。図書室で休憩しながら学校紹介のビデオを見る。出された飲み物は炭酸水。りんごと苺も用意してあった。	ニューネーション校長 ツーマクネイヤー先生
12:00	コリマレストランで昼食（メキシコ料理）	タコス、ブリトー、チリソース、ビーンズなどのビュッフェランチにした。少しむっっこい料理だった。	ケシーハリードクター
13:30	スモーキーマウンテン高校を訪問する。	音楽、理科、科学、英語、テクノロジー、ビジネス、看護、家庭、美術教室や進路指導室、受けない授業がないときに他の学校や大学の授業をオンタイムで見られるITV室、などを見て回り、その先生達と挨拶、話をした。先生の教室なので、生徒が荷物を持って教室を移動する。授業を受けながらジュースやあめなど食べており、フランクな雰囲気だった。	ケネスハンク校長 ワンダ副校長（アシスタント）
			
15:00	歓迎会と質疑応答	先生方が図書室に集まり、ジュースやフルーツを食べながらの自由な会話が始まる。	スモーキーマウンテン高校の先生方

18:00	ジュナルスカ湖の前のホテルでバイキングスタイルの夕食	<p>る。日本のようにみんながきちんと席について始めるのではなく、来た人から始めている。ひとしきり話が済み、終わり近くなり、挨拶がある。終わりもみんながそれぞれの解散となり、一斉にお開きはない。</p> <p>車で1時間位のところで、コックス先生やその他先生が来られ、一緒に食事する。やはりケーキが甘すぎる。</p>	
<p>3月28日 (火曜)</p> <p>8:20</p> <p>9:00</p> <p>9:30</p> <p>10:15</p> <p>11:00</p> <p>11:45</p> <p>12:30</p> <p>13:00</p>	<p>ブラウンカフェテリアで朝食</p> <p>ジョナサンバレー小学校に着く。COXさんとクラスの子一人が迎えてくれる。 クラスに入る。</p> <p>1時間目「算数」 2時間目「リーディング」 3時間目「体育」 4時間目「社会」</p> <p>2年生クラスの見学 4年生クラスの見学 リトルキッズクラス</p> <p>カフェテリア</p> <p>3年生クラスの見学</p> <p>1年生のクラス</p> <p>1・2年合同のクラス</p>	<p>山芋のおろしたのやマッシュポテトがあった。ポテトのソースがこってりしていた。</p> <p>先生の休憩室へ行く。コーヒーを入れてもらい、それを持って教室へ向かった。</p>  <p>COX先生の代わりに保護者が来られて授業をされる。COX先生に学校を案内してもらう。</p> <p>とても静かに行儀よく食べていて驚いた。先生の言うことを良く聞く。メニューは照り焼きチキン、クリームポテト、ブロッコリー、パン。菓子やアイスクリーム、ジュースなども買えるようになっていた。</p> <p>g、kgの学習だった。教科書が</p> <p>絵本を読み聞かせていた。とても静か。先生の前に車座になっていた。日本から来たと言ったら男の子が「はらぺこあおむし」の絵本をもってきた。明日、日本語で読む約束をした。</p> <p>2クラス合体した50名のクラス。先生が2人で経営している。</p>	COX先生

<p>14:00</p> <p>14:30</p> <p>17:00</p>	<p>5年生のクラス (TT)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・進級テストが1年の終わりの2週間前に1回あり、成績が3・4以外は再テスト。不合格(1・2の場合)は留年。</p> <p>・2週間に1回は先生同士、カリキュラムの報告をし合う。</p> </div> <p>学校の見学</p> <p>フェアビュー小学校のカリキュラムフェアへ行く。</p>	<p>5年生は3クラスあるので、カリキュラムは一緒に作っているとのこと。1つのテーマ(例えばカナダについてなど)音楽、理科、社会、国語など全ての教科が関連するようなカリキュラムを2年間かけて作る。視点を与えて(オーガナイズシート)を使い、ファイルにとじていく。教室に本をたくさん用意している。子供がそれを3週間毎にプレゼンテーションする。</p> <p>子供はいなかったが、キンダーガーデンクラス、スペシャルクラス等を見てまわった。</p> <p>学習したことを展示したり発表したりする会があった。保護者が来て一緒に成果を見合っていた。テーマ学習をして、はパワーポイントで示したり、模型を作っていたり、とても工夫されていた。</p>	
<p>3月29日 (水曜)</p> <p>9:00</p> <p>9:30</p> <p>10:00</p> <p>10:30</p> <p>11:00</p> <p>11:30</p>	<p>キンダーガーデンクラス</p> <p>1年生クラス</p> <p>コンピュータールーム</p> <p>5年生合同クラス</p> <p>タイトル1クラス</p>  <p>音楽室</p>	<p>リーディングの時間</p> <p>「はらべこあおむし」の絵本を日本語と英語で読む。「ちょうちょ」と「べこべこ」を教える。</p> <p>5年生クラスが、図書の分類法を学習していた。図書の先生がメディア専門なので教えていた。ふつうは、担任が教える。</p> <p>家庭科のアンケートをとる。</p> <p>用紙を配った。隅に1人でいた子に配り忘れた。その子は静かに手を挙げて待っていた。仕切られた場所もあった。静かにアンケートを書いていた。</p> <p>低学力の児童のために政府がお金を出して雇った先生が教えている。学習したことを先生が手作りの本にしたり、テキストも、先生が手作りしていた。(その子のレベルに応じて)</p> <p>机はない。3つのグループで打楽器を音楽に合わせてそれぞれのパートのリズム打ちする。</p>	

11:45	カフェテリア	2年生の子と食べる。メニューは、ピザ。残す子が多い。食べ終わったら、当番の子が机を拭いていた。	
12:30	5時間目の授業「算数」	毎日算数は午後1時間とっている。計算機の使い方を、買い物の場面を想定して学習していた。	
13:30	5年生クラス	家庭科アンケートをとりに行く。25人のふつうのクラス。	
14:00	美術	人物画のかき方の学習。 クレヨンで輪郭を取っていた。	
14:30	5年合同クラス	社会の学習。T1が話をし、T2がOHPで資料を写していた。教科により、T1、T2の役目を分担する。教材は一緒に考える。態度の悪い子は、小さな声で注意をし、ノートに記録していた。(席移動あり)	
15:00	歓迎会をしてもらう。	全教職員が集まった。ジュース、ケーキやクッキーでもてなしてもらう。英語で挨拶が難しかったので、お礼の気持ちを込めて日本の歌「富士山」を披露する。その後、日本からもっていったおみやげ(剣玉、紙風船、風呂敷など)を紹介し、楽しく過ごした。やはりケーキが甘い。	キャロル先生
18:30	夕食(レストラン「ルルド」)	ロイス先生の家族と甥(ケニア人)と小野先生の6人。分かりやすい日本語で会話しながらの食事。パスタを頼んだが、サラダと混ぜて合わせてあり、口に合わなかった。	

※カリキュラムについて

国語…毎日1時間は必ずとる。文字、日記、作文の時間を30分必ずとる。

算数…毎日午前に30分、午後1時間とっている。

理科…週に3回、30分。

社会…週に2回、30分

コンピュータ…週に1回、30分～1時間

体育…週に2回、30分

美術…週に1回、45分



(日本のようにきっちりした時間ではない。)

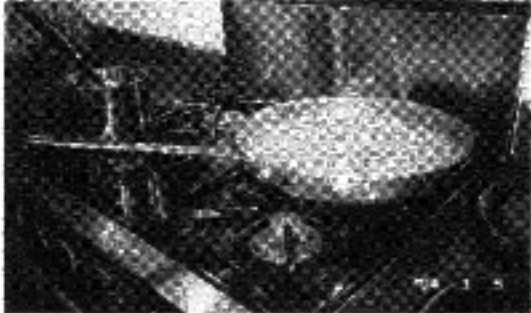
家庭科はなかった。栄養については栄養ピラミッドを3年生から教える。また、食事のマナーや食べ方については「健康」の学習の中で2年にて教えるとのこと。

※ガイダンスカウンセラーについて

- ・生活習慣がついていない子、家庭で問題があった子(親の離婚経験率50%)等のアフターケアをしている。
- ・どうやって学んだらよいか。学び方がいろいろあって、視覚的に学ぶなどクラスを回って教えたり、1対1で子供と話をする。
- ・親同士意見の食い違いがあったとき、どのように処理・対処すればよいかの仲裁をする。
- ・責任感の欠如している子への指導や、将来の仕事、職業について話をしたり、講師を招いたりする。

<p>3月30日 (木曜)</p>		<p>(今日は、通訳がないため、高校を見学することになる。)</p>	<p>キャシー・ウォルシュ先生</p>
<p>8:20</p>	<p>タスコラ高校に着く</p>	<p>副校長先生(女性)が迎えてくださる。</p>	
<p>9:00</p>	<p>スペシャルクラス</p>	<p>I Q50以下の子供達。法律で、公教育を受けるよう定められている。</p>	
<p>10:00</p>	<p>裁縫の授業</p>	<p>ミシンを使ってそれぞれの学生が服などを縫っていた。ピローケース、シャツ、ベビー服、タンクトップ、ドレスなど様々だった。6ヶ月間しか習っていないのにずいぶん難しいものを作っていた。選択科目。</p>	
			
<p>11:00</p>	<p>食物(ニュートリション)の授業</p>	<p>フードカッターの使い方ビデオを見る。</p>	
		<p>生徒は、女5名、男3名。その後、キュウリ、トマト、ピーマンを下処理し、実際に使ってみる。それで授業は終わった。</p>	
<p>12:00</p>	<p>食物の先生にインタビュー</p>	<p>アメリカ(ノースカロライナ)の伝統的な食べ物</p>	
<div data-bbox="420 1409 892 1795" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>代表的な食事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卵(スクランブルエッグ) ・ベーコン ・クリッツ(粗挽き穀物) ・パンかパンケーキ ・バターやジャム </div>		<p>①フライドチキン、②コーンで作ったパン(グレイン)、③マッシュポテト、④グリーンビーン、⑤cobbler(パイの一種)、⑥バーベキュー、⑦grits</p>	<p>キャシー・ウォルシュ先生</p>
<p>12:30</p>	<p>カフェテラスで昼食</p>	<p>バイキング形式になっている。驚いたのは、用意されている飲み物がどれも甘いということ。仕方なく、水を購入した。</p>	
		<p>他の先生方の食事や生徒の食事をみると、飲み物は、コーラやスプライトのようなものが多かった。また、食事の内容も人により実に様々で、バランスなど全く考えていないようであった。</p>	
<p>13:30</p>	<p>parenting & child development (育児)</p>	<p>子どもを育てていく上での親としてのことを学習。ある物語を用いて、してはいけないことやすべきことなどを学習する。</p>	
		<p>また、実際の子どもの正しい世話の仕方や扱い方についても実習がある。</p>	

<p>14:00</p> <p>16:00</p>	<p>interior design & teenling (インテリアデザイン)</p> <p>バイオテクノロジークラス(環境)</p> <p>バイオロジークラス(生物)</p> <p>カリキュレータークラス(計算)</p> <p>統計学</p> <p>ショッピング</p>	<p>授業が行われていなかった。先生と話を する機会がもてなくて残念だった。</p> <p>コの字型の机の配置。具体物を使って楽 しく学習。一人、うつぶせて寝ている子 がいた。</p>  <p>スーパーのようなところだったが広々し ている。品物もどれも大きい。保存食の 種類が豊富。</p>	
<p>3月31日 (金曜)</p> <p>8:30</p> <p>9:00</p> <p>9:30</p> <p>10:00</p> <p>10:15</p> <p>11:45</p> <p>13:00</p>	<p>ジョナサンバレー小学校到着。</p> <p>体育の授業を見る。</p> <p>2年生クラスに行く。</p> <p>3年生クラスに行く。</p> <p>美術のクラスへいく。</p> <p>カフェテリアで昼食。</p>  <p>2年生クラスで折り紙を教える (新聞社取材)</p>	<p>日本に比べ、値段が安い。</p> <p>校長先生と挨拶。</p> <p>今日の予定打ち合わせをする。</p> <p>体育館でベースボールをしていた。(雨の ため)</p> <p>歓迎会の時披露した歌を子どもたちに紹 介してほしいと言われ、「富士山」を歌う。</p> <p>ちょうど休憩時間で、スナックを食べて いる子、ゲームをしている子など様々だっ た。私が入ると、とても興味を示し、た くさん質問を受けた。(英語で)</p> <p>1列に並び、静かに入る。</p> <p>メニューはビーフハンバーガーかチキン ハンバーガー。チキンの方にするが、す かすかしている。聞くと、チキンを一口 砕いて圧縮して味付けしたものらしい。</p> <p>つまり、加工食品。アメリカでは、体に よくない食品も多く出回っているのだ、 残さず食べる指導はないらしい。アイス やチップスやジュースなど自由に選んで 食べ、たくさん残していた。(教師も)</p> <p>折り紙でピカチューを折る。かなり難し く、ほとんどこちらが折ることになった。</p>	<p>COX先生</p> <p>タイム・ワシューさん</p> <p>アシスタントの先生</p>

14:00	避難訓練		
14:30	5年生クラスへお礼	2クラスへお礼を言いに行き、カリカリ梅をプレゼントした。キャンディかと大喜びしていたが、梅の説明をすると複雑な顔になっていた。	
19:00	COX先生と車で下校	アッシュビルの町のジャパニーズレストラン「とも」で夕食をとる。にぎり寿司どんぶり、刺身、みそ汁、豆腐、日本酒などがあり、満席で人気があった。味もまあまあおいしい。	
4月1日 (土曜)	ホームステイ 朝食 昼食 夕食	COX先生宅にて。 フレンチトースト、大豆のベーコン、コーヒー ドライブ途中のレストランにてサラダを注文。クラッカーがついていた。あまりシャキッとしておらず、大ざっぱな感じがした。量は多い。 ご主人の手料理「バエリア」 90分かけて煮込んだ料理。イエローライスや魚介が入っていた。サイドメニューはブラックビーンズ(豆)とバナナフライ。アメリカ研修中一番おいしかった。	ロバートD・COXさん
			
4月2日 (日曜)	朝食	トースト、スクランブルエッグ(ご主人特製トマトチーズ入り)、大豆のソーセージ、コーヒー	

(4) 研究の結果と考察

① アンケートについて

Jonathan Valley Elementary Schoolの5年生79名と東雲小学校の5年生80名に次のようなアンケートを実施した。

- 何人家族か。
- 週に何回くらい家族で夕食をとるか。
ア ほとんど毎日 イ 3~4回
ウ 1~2回 エ ほとんどない
- 週に何回くらい朝食を食べるか。
ア ほとんど毎日 イ 3~4回
ウ 1~2回 エ ほとんど食べない
- 朝食に何がよく出るか。(複数回答あり)
ア パン イ ごはん ウ シリアル

- エ 牛乳 オ コーヒー カ 紅茶
キ 卵料理 ク みそ汁 ケ サラダ
コ 肉料理(ベーコンなど含む) サ 魚料理
シ 果物 ス ヨーグルト セ その他

5 食事や片づけをどのくらい手伝うか。

- ア ほとんど毎日 イ 順番の時
ウ 言われたとき エ ほとんどしない

6 家の中で仕事があるか。あれば、何の仕事か。

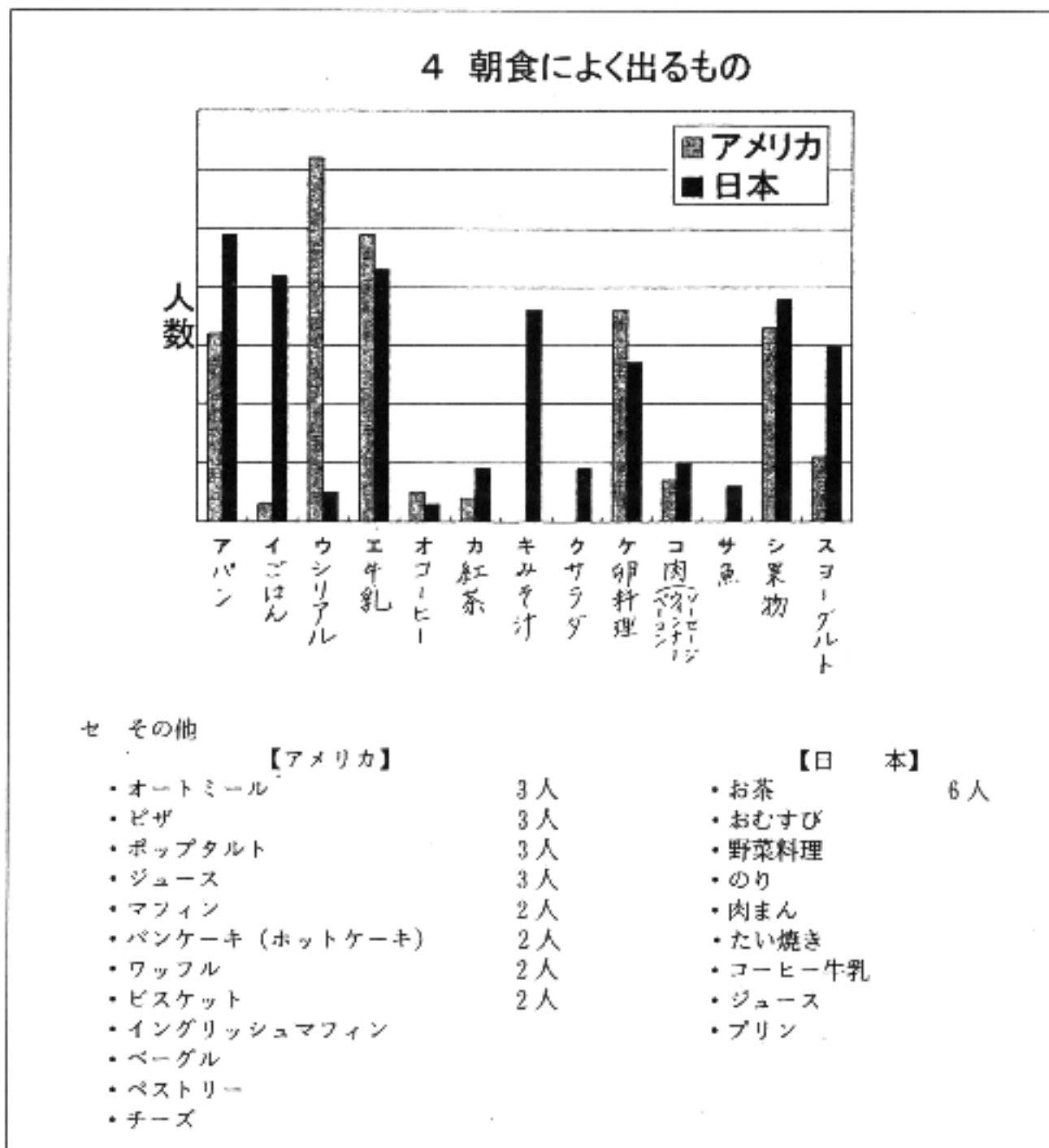
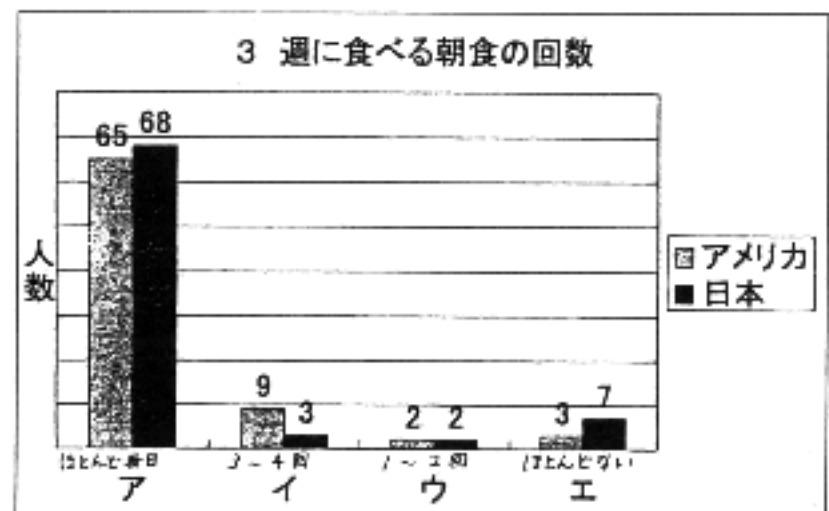
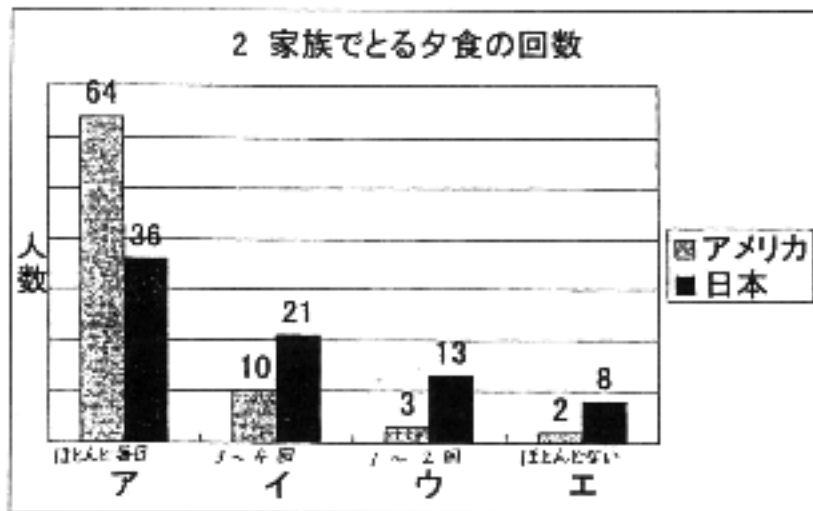
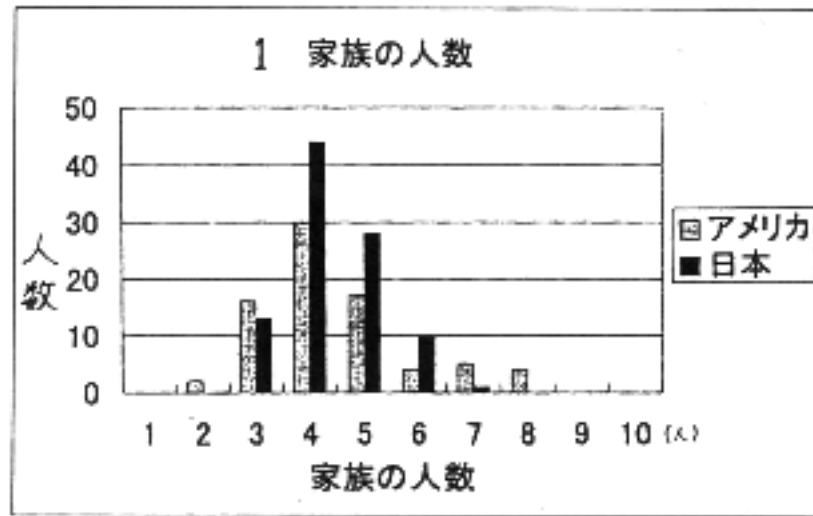
7 1番好きなメニューは何か。

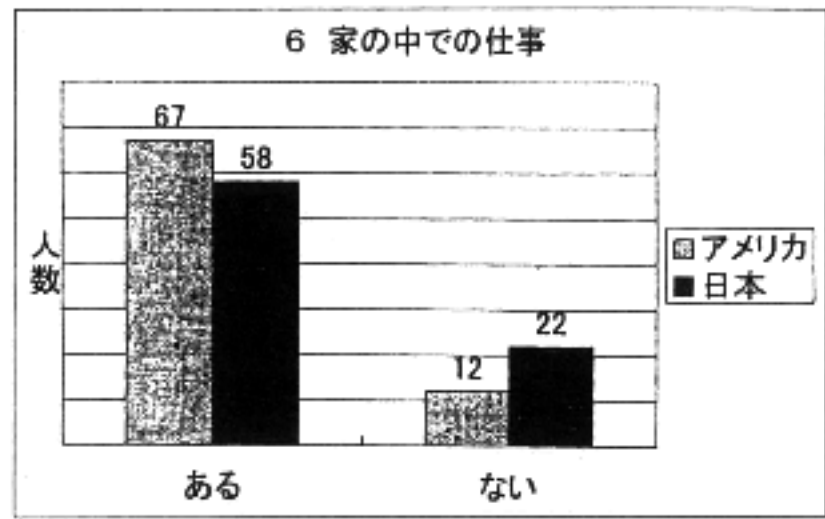
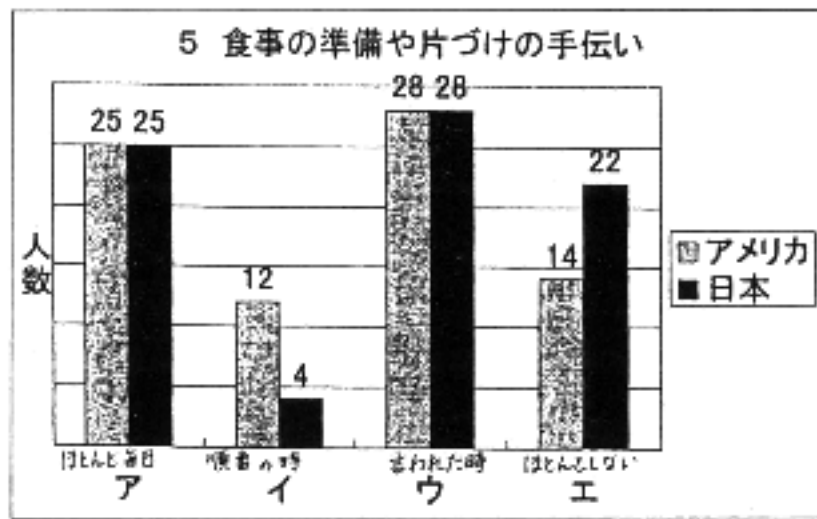
8 1番嫌いなメニューは何か。

9 給食のメニューで1番好きなメニューは何か。

10 アメリカ(日本)の生活について知りたいことや聞いてみたいこと。

結果を以下に示す。





6 家の中での仕事

(アメリカ)

・部屋のそうじ	20人
・自分の部屋のそうじ	16人
・掃除機をかける	15人
・ほこりをとる	7人
・はきそうじ	3人
・モップをかける	2人
・庭、屋根、台所そうじ	
・窓ふき	
・ゴミ捨て	2人
・ゴミ出し	7人
・芝刈り	3人
・花壇の種まき	
・コンピュータ修理	
・鍵締め	
・食器洗い	23人
・食器ふき、食器おさめ	2人
・テーブルセッティング	
・料理の手伝い	2人
・せんたく	3人
・自分の衣服や洗濯物をたたむ	
・動物のえさやり	13人
・動物の世話(散歩、洗う等)	5人

(日本)

・部屋のそうじ	5人
・自分の部屋のそうじ	2人
・ぞうきんがけ	
・つくえふき	
・玄関はき	
・ゴミ捨て	5人
・風呂そうじ	17人
・風呂わかし	7人
・片づけ	
・ゴミ出し	
・くつそろえ	
・草ぬき	
・布団干し、布団しき	4人
・窓の開け閉め	
・食器洗い、収める	2人
・食事の後かたづけ	4人
・食事の準備	6人
・米とき	
・せんたく	3人
・せんたくをとり込む	
・せんたくものたたみ	
・動物の世話	6人
・兄弟(子供)の世話	4人
・花の水やり	
・新聞とり	4人
・買い物	2人

7 1番好きなメニュー

	アメリカ	日本
① ピザ	35人	カレー 10人
② 照り焼きチキン	4人	すし 9人
③ スパゲッティ	3人	ラーメン 8人
④ ステーキ	3人	ステーキ 7人
⑤ ライス	2人	グラタン 6人
⑥ 卵スープ	2人	ハンバーグ 5人
⑦ チーズ	2人	スパゲッティ 4人
⑧ タコス	2人	焼き肉 3人
⑨ スイカ	2人	オムライス 3人
⑩		ハヤシライス 2人
		肉 2人
		すき焼き 2人
		さしみ 2人
		ピザ 2人
		ヨーグルト 2人

8 嫌いなメニュー

	ア	メ	リ	カ		日	本
①	サ	ラ	ダ	7人	ビー	マン	12人
②	魚			6人	に	が	う
③	レ	バ	ー	と	玉	ね	ぎ
④	ブ	ロ	ッ	コ	リ		
⑤	豆			5人	レ	バ	
⑥	ミ	ー	ト	ロ	ー	フ	
⑦	芽	キ	ャ	ベ	ツ		
⑧	ピ	ザ		4人	ひ	じ	き
⑨	ラ	イ	ス	3人	し	い	た
⑩	ほ	う	れ	ん	草		
				3人	魚	料	理
					パ	ン	2人

9 給食で好きなメニュー

	ア	メ	リ	カ		日	本
①	ピ	ザ		52人	カ	レ	ー
②	照	り	焼	き	チ	キ	ン
③	ポ	テ	ト	パ			
④	チ	キ	ン	ナ	ゲ	ッ	ト
⑤	チ	キ	ン		う	ど	ん
⑥	ホ	ッ	ト	ド	グ		
⑦				2人	ハ	ヤ	シ
⑧				2人	す	き	焼
					コ	コ	ア
					バ	バ	ロ
					ア		

10 アメリカ（日本）の生活で知りたいこと、聞いてみたいこと

アメリカの子どもたちの質問		日本の子どもたちの質問	
【食事について】			
食べ物について	27人	どんなものを食べるか	24人
どんな食べ物を食べるか	7人	朝食に食べるもの、おいしいか	9人
好きな食べ物	6人	主食は何か、米は食べるか	5人
食べ物の違いについて	2人	和風のもの食べるか	3人
朝食に食べるもの	3人	洋風のものしか食べないのか	
箸について	3人	魚は食べるのか	2人
米について（米食の歴史）		パンや肉類はよく食べるのか	3人
レストランの種類		朝食にみそ汁が出たことがあるか	
マナーについて		ご飯の時に何を飲むか、日本茶があるか	
アメリカの食べ物を食べるか		食事は家で食べるか、外食か	
		一番人気の食べ物、好きな食べ物	
		どんなデザートがあるか	
		食事の量はどのくらいか	
【服装（衣生活）について】			
どんな服装をしているか	27人	どんな服装をしているか	2人
アメリカと同じか、違うか	2人	靴は脱ぐのか	
服装の種類	2人	衣服は洗濯機で洗うのか	
宝石について	2人	裁縫をするのか	
どんな帽子・靴か			
教会に何を着ていくか			
どうして着物を着るようになったか			
【住まいについて】			
家の外観（どのような家か）	10人	家族の人数や家族のこと	5人
生活のしかたについて	2人	家の外観、ようす、形態	2人

② 考察

現地での食事や子どもたちのアンケートをもとに「食生活」について日米の比較をおこなうと以下のようなになる。なおここでは、視察したジャクソン地区に限定したものであり、このことがアメリカのすべてにあてはまるものではない。

日本とアメリカの共通点

- 家族に人数や食事の取り方、手伝いの仕方などで大きく異なる点はなかったように思う。ただ、夕食を家族で毎日とる家庭が日本はアメリカの約半数であった。塾や習い事、親の仕事が忙しい現れなのであろうか。それに伴って、食事の準備や片づけをしない子が多くなっている。家の中でする仕事の内容も大きな違いはない。アメリカでは、自分の部屋をそうじする仕事と食器洗いの子が多いが、日本では少ない。風呂そうじが一番多いのもおもしろい。
- 毎日の食事をバランスよくとろうとする意識は、日米どちらも関心が高く、小学校から食べ方の指導をおこなっていることからそのことがよくわかる。特にアメリカでは3年生から栄養ピラミッドを用いて食べ方のバランスについて学習するようになっていた。日本のように家庭科という教科の中で教えるのではないが、健康を考える時間として位置づけされていた。また、そのことを日常的に意識させるような掲示も至る所で見ることができた。
- 学校での昼食は給食として栄養を考えたメニューを用意していた点もよく似ている。カフェテリアで食べ終わったら机を自分たちでふいていたところは、日本のそうじを思わせた。食べるときのマナーも指導が行き届いており、大声を出したりして他に迷惑をかけないようにルールも徹底していた。
- 嫌いな食べ物がよく似ていた。野菜が多いのも特徴。

日本とアメリカの相違点

- 朝食のメニューから食事の取り方でその国の特徴が出てきている。アメリカのシリアル、日本のごはんやみそ汁、お茶などが典型的だ。意外だったのは、パンやヨーグルトをアメリカよりも日本の方がよく食べていることだ。生活スタイルの欧

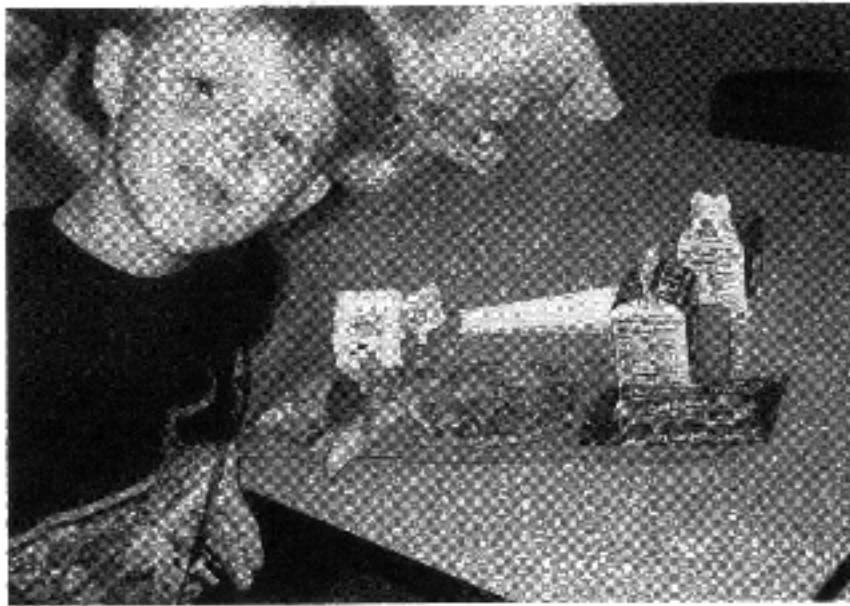
米化、多様性を感じた。

- 食事の内容を見てみると、日本に比べ、野菜をとる量がきわめて少ない。日本では健康的な食事はすなわち野菜をたくさんとることという考えが主流である。日本人の体に合わせた理にかなった考え方である。一方、アメリカでは野菜を多くとるようにという指導はなく、強調して指導されていたのは、脂肪分や甘いものをとりすぎないようにということであった。このことは日本にも共通しているが、特にアメリカでは重要であると感じた。というのも、食事の飲み物を多くの人々がジュースや甘い紅茶だったからである。日本ではお茶を飲むのがふつうであるが、コーラやスプライトを選ぶ場面を多く見た。また、料理の味付けが一般的に濃く、素材を生かした料理が少ないと感じた。加工食品を使った料理も多く、食品添加物など体によくないとされるものもどうしても体に入れやすくなる。そのため、出されたものをすべて食べるのではなく、食べたくなかったら残す。自分を守るためにも残すことはあり得るという考え方だった。そのためか、取ってきた料理を食べずに平気で捨てる場面を多く見た。
- 日本では、学校でお菓子やジュースを飲むことは禁止されているがアメリカでは比較的自由である。さすがに授業時間では注意を受けていたが、それ以外では食べている場面を見かけた。また、昼食時では自由に買うことができ、食事の中でポテトチップスやアイスクリームなどを食べていた。子どもたちは好きなものを好きなだけ食べているように見えた。日本のように体にいいからと嫌いな野菜をがんばって食べるという場面はない。

(5) 今後の展望

食べることに関心があるのは、どの国も同じだ。食べ物を通してその国の文化や考え方に触れることもできる。会話も弾む。

日本食は日本の風土にあった理にかなった食事である。昨今では洋風化して伝統的な食事をする機会が減ってはいるものの、子どもたちの食事の好みの中に和風のものもあげられていてうれしくなった。世界的にも日本食は今注目されている。どんなところが優れているのかきちんと教えていく必要を感じた。家庭科では



「みそ汁とごはん」の調理がある。この題材を生かし、日本食のよさをもっと伝えていきたいと考えている。と同時に他国の食文化にふれ、そこで生活する人々への思いをもつことができればと願う。

(6) おわりに

今回のグローバルパートナーシッププロジェクトで出会った人すべてが私の国際理解を広げさせてくれた。人間は、言語や文化が違っていても分かり合えると言うことを体で感じた。実際に体験することの大切さも感じ取ることができた。食生活を研究する目的であったが、



生活と食生活の結びつきについても考えることができたように思う。また、他国に入っていくことで自国のよさに気づけた気がしている。

今回、このプロジェクトに参加するにあたり、多くの人たちにお世話になり貴重な体験をさせていただいたことに深く感謝したい。

6月に今度は日本へ来ていただくが、そのときはぜひ子どもたちが調理したみそ汁を食べていただこうと思っている。そして、これから子どもたち同士が情報を交換し合って人間同士の理解へとつながっていくことを願ってやまない。

〈6月にアメリカからサマー先生が来校〉

6年生が調理実習で作った「みそ汁とごはん」を一緒に食べているところ。おはしを上手に使って残さず食べられました。

給食も子どもたちと一緒に食べたり話をしたりして、交流を深めました。



日米の中学校理科における教育プログラム及び 教材の開発とその実践的研究 I

— 必修理科や環境教育におけるインターネットを利用した実践 —

広島大学附属東雲中学校 教諭 鹿江 宏 明

(1) はじめに

21世紀がまさに始まろうとする時代にあって、これからの社会は国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題への関心の高まり、高齢化・少子化等において激動の時代を迎えるとともに、これら社会の変動はさらに加速することが予想される。また、このような社会の情勢はこれからの学校教育にも大きな影響を与えるとともに、社会の中における学校教育の責務も今後一層重要になってくるといえる。

このような時代を迎え、1996年に中央教育審議会は我が国の教育目標の指針として「生きる力」を提言した。また、これを受けて新しい学習指導要領が2002年より完全実施されることとなった。学校教育もまさに激動の時代を迎えているといえよう。しかしながら、これら教育改革を推進する上で、我々は自国の教育改革のみに目を奪われるのではなく、世界の教育改革の歴史や現状をふまえつつ、各国の現場教師が共同してより効果的な教育実践をめざす必要があると考える。このような視点から、本研究は日米の理科における教育プログラム及び教材の開発とその実践を最終的なねらいとし、その第一段階としてインターネットを利用した日米の教員及び生徒の恒常的な相互交流の方策を、必修理科及び環境教育の取り組みを通して実施することとした。

以下にその内容を報告する。

(2) 研究の概要

① 渡米前における準備

本研究にあたっては、米国側の共同研究者である Mike Rowe氏 (Hendersonville Middle School) と、渡米前に電子メールやホームページを利用して連携をおこなった。まず、本研究の推進に関する具体的な実施方法や、その内容の検討について電子メールを積極的に用い、例えば本研究の目的について何をどの程度まで明らかにするかということについて意見を交換したり、本校の取り組みの状況や Hendersonville Middle

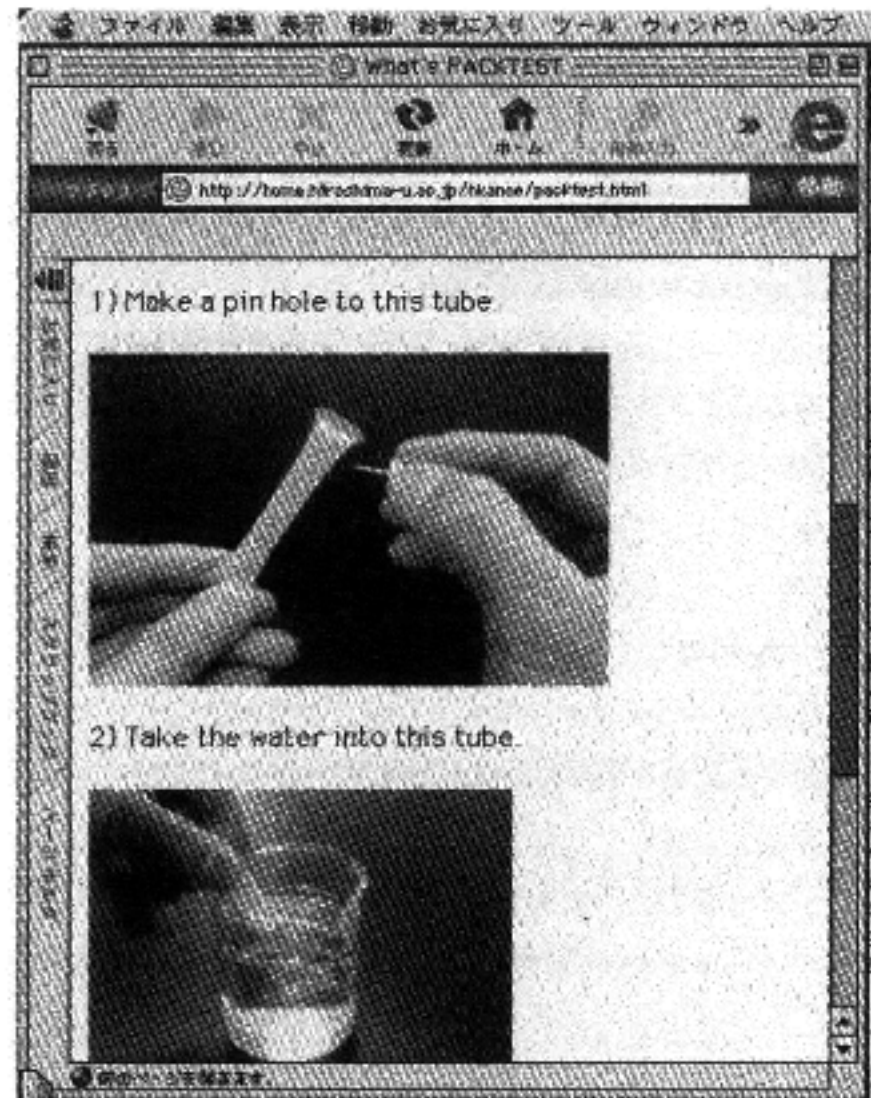


図1 意見交換用ホームページ

Schoolにおける取り組みの様子について情報交換を開始した。また、お互いの学校のコンピュータ設置状況や、コンピュータ・ネットワークの環境について、本研究を推進する上でどのように有効に活用できるか検討した。

次に、広島大学のユーザーエントリーマシン上に、意見交換用のホームページを作成し、日本側で取り組んでいる実験方法や実験器具の写真を貼付し、画像による情報交換を開始した。図1は、日本で環境調査を実施する際に一般的に用いられているバックテストについて、その使用方法をホームページを利用して説明している。

これらの意見交換の結果、まず我々は各学校において、お互いの校舎付近を流れる河川のpH値、COD値、硬度、残留塩素などに着目した水質調査を生徒に取り組ませることとした。また、お互いの学校におけるコンピュータ・ネットワーク環境について意見交換をした結果、イーサネット環境により常時インターネット

が使用できる状況にあることが確認できたため、取り組み開始後のデータ交換や生徒同志の交流活動はインターネットを活用して実施することとした。しかしながら、実際に生徒に学習活動を開始させるにあたり必要となる詳細な計画（例えば調査の頻度、時期、資料の整理方法、指導・支援の方法等）については、各校の生徒の実態をふまえて立案することが必要とされるため、これらの課題については渡米時におけるミーティングで検討することとした。

また、これら意見交換の結果、我々は日々の理科の授業において利用している教材に関する恒常的な相互交流も必要であるとの認識に至った。したがって、まず、お互いに自国で実践している実験や観察を紹介しあうことと同時に、身のまわりの道具を用いた効果的な教材の活用についても交流を開始すべく、今回の渡米を機に日本側から数種類の実験器具を持参し、ミーティング時に紹介及び意見交換をすることとした。

② 渡米時における研修・研究活動、及び現地調査

a) 米国の教育カリキュラム

・全米及びノースカロライナ州における教育の現状

NCCAT (North Carolina Center for the Advancement of Teaching ノースカロライナ州立の教育センター) を訪問し、この施設が州の教育に果たす役割や機能について Henry Wong氏より説明を受けた。1983年に設立されたこのセンターは、教員の専門的な成長・改善・自己研修を主な目的としており、教員の研修期間は1週間の全寮制、年間90セミナーで約4,500人が参加しているとのこと、また、このような施設は全米で4州しかなく、他の州からも注目されているとのことであった。

次に、全米及びノースカロライナ州における教育の状況について Casey Hurley博士 (Western Carolina 大学) より説明を受けた。主な内容は、(i) アメリカの教育システム、(ii) 学校教育の目標、(iii) アメリカの教育の課題、(iv) ノースカロライナ州における取り組みであった。この説明の中で、教育目標のひとつに To reconstruct societyが掲げられていることが印象に残った。また、ノースカロライナ州の教育に対する意識は全米の中でも特に高く、現在教育改革を推進中であるとのことであった。

・ノースカロライナ州が取り組む教育改革

ノースカロライナ州教育委員会を訪問し、1995年よ

り開始しているABCプロジェクト (Accountability, Basic, Local control)、及び現在継続実施されているABC plusの状況について州教育長より説明を受けた。この教育改革の結果、1995年には123校あったLow Performance Schoolは指導により1997年に15にまで減少したが、学習内容においてまだ十分な成果が得られていないため、現在はABC plusを継続しているとのことであった。この説明の中で、これら教育改革により実施される一斉テストが各公立学校の生徒や教員に与える影響の大きさや、そのテストの結果を重視し指導を加えていく教育行政システム等が印象的であった。

b) 環境教育における先進的な取り組み

・Fairview School訪問

環境教育における取り組みとして、この小学校ではwild watch プロジェクトを推進している。このプロジェクトは1994年より開始されたが、当初は自然に対する子どもと親の認識を変えることをねらいとして、まず保護者と教員と児童が協力して校内清掃を実施することから始めている。次に、校内に自然観察園を設置するために、保護者がチェーンソーで木を切り、児童が遊歩道や池を作成している。これらの設計、例えば遊歩道の傾斜角度やウッドチップによる植物の保護、野鳥観察の場所、ちょうの公園づくり、ハーブガーデン等はすべて児童が自主的におこなっている。また、GLOBEプロジェクト (Global Learning and Observation to Benefit the Environment 全世界の幼児・児童・生徒、教師及び科学者が相互に協力しながら、全世界の個々人の環境に関する意識の啓発、地球に関する科学的理解の増進、理数教育においてより高い水準へ到達するための援助となることを目的として環境観測や情報交換をおこなう、学校を基礎とした国際的な環境教育のプログラム) に6・7・8年生が参加し、積極的に環境調査をおこないながらインターネットを利用してワシントンにデータを送る学習活動を実施している。

c) Hendersonville Middle School における理科授業の観察

・生物

18名の授業。フクロウのペレットを用いて動物の食べ物や消化のしくみを学習していた(図2)。1班3人の6班で観察が実施される。また、班ごとに違ったペレットを観察し、プリントに記録していた。



図2 ベレットの観察

・生物

25名の授業。生徒はフクロウのペレットを細かくほぐした後に、それぞれ骨を取り出し、フクロウがエサにしたネズミ等の原型をつくる学習活動に取り組んでいた。このペレットは教材として販売されているとのこと。日本でこのペレットは教材としてほとんど用いられていない。1班3名編成で全8班。

・地学

26名の授業。火山活動の様子や噴火の状況などを、セントヘレンズ火山の噴火を教材として授業が進んだ。前日に北海道の有珠山が噴火したニュースがこちらでも報道されたため、日本の火山についても話題になり、環太平洋火山帯について説明を求められた。教科書は、物理・化学・生物・地学それぞれが分冊になっていて、生徒は学年にまたがってそれらを使用していた。

・生物

23名の授業。人体の構造についてCD-ROMを使いながら授業が進められていた(タイトル「ADAM The Inside Story」)。各教室に一台ずつコンピュータと大型テレビが設置されており、コンピュータの画面はテレビに投影できるようになっていた。

・今回の訪問では、理科に限らず他の教科についても積極的に授業を観察した。各クラスとも人数は日本より少なく、生徒の実態や能力に応じて14~26名で構成されていた。学年末テストの直前であったため、補充学習的な授業が多かったが、生徒は落ち着いてどの授業も熱心に受けていた。また、学習規律に対する指導も大変厳しく、授業中における私語の禁止はもちろんのこと、必ず授業者の許可を得て発言したり席を離れるなどの指導が徹底していた。

d) 共同研究の推進に関するミーティング

・水質調査の方法

生徒による地域の河川の水質調査について、東雲中学校側では選択理科を履修する生徒が、また Hendersonville Middle School 側では月に1回実施されている「環境クラブ」に所属する生徒が測定を実施することを確認した。対象とする河川については、東雲中学校側は校舎近くを流れる猿猴(えんこう)川を選択した。また Hendersonville 側は、町内を流れる川が小さいため、郊外の比較的大きい川を選択することを確認した。生徒によるデータの交換や相互交流の方法は電子メール、または共通のホームページに内容を掲示し、生徒が相互にアクセスすることとした。さらに、調査対象とする河川の紹介、サンプリングの様子、調査・観察の状況を、VHS形式によるビデオレターを用いて実施することも今後検討することとした。

・教材・教具や実験に関する恒常的な交流

まず Hendersonville Middle School や日本の中学の理科授業において取り上げる単元・教材等について、意見交換をした。この時間にノースカロライナ州における理科の学習指導要領を一部複写し共有するとともに、日本の学習指導要領についても後日送付し共有できるようにすることを確認した。

次に、日本から持参した実験道具を紹介し、お互いに意見交換を行った。また、Mike氏からも効果的な実験について提案があった。実験に使用した道具については、お互いの国で入手が可能かどうかを確認するとともに、実験に必要な教材については郵送等で相互に交換することとした。今回紹介した実験は次の通り。



図3 しょうゆさしを利用した浮沈子

(i) 風船とビニールひもを利用した静電気実験、(ii) 高分子吸収剤（スミカゲル S 100）を利用した科学マジック、(iii) 弁当用しょうゆさしとペットボトルによる浮沈子の作成（図 3）、(iv) 雨天時にデパート等店舗の入り口で配布されるビニール製傘袋を利用したコロイドによる光の散乱現象実験。

また、Mike氏からは、エタノールを用いた簡易爆発

実験について紹介があった。この実験は、テニスボールの空き缶を数個結合させ、気化したエタノールを缶の中に満たした後にテニスボールを入れ、点火・爆発させてボールを飛ばす方法で、エタノールの引火性や急激な反応（燃焼・爆発）を屋外で安全にかつ効果的に演示できる実験であった。

③ 現地調査の日程

日 時	場 所	内 容	関係者・関係機関 (所属・所在地・連絡先等)
3/27 (月) 9:00	NCCAT	<ul style="list-style-type: none"> ・ノースカロライナ州立教育センターの概要 ・全米及びノースカロライナ州における教育の現状 ・質疑 	Mr. Henry Wong (NCCAT) Dr. Casey Hurley (WCU) The North Carolina Center for the Advancement of Teaching Cullowhee, NC 28723-9062 828-293-5202
11:00	Fairview School	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育における先進的な取り組み ・質疑 	Ms. Sue Nations (Principal) Fairview School 251 Big Orange Way Sylva, NC 28779 828-586-2819
3/28 (火) 8:02	Hendersonville Middle School	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 	Ms. Polly Crabtree Hendersonville Middle School 930 Ninth Avenue West Hendersonville, NC 28791 828-697-4800
3/29 (水) 8:02	Hendersonville Middle School	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・共同研究の推進に関するミーティング（水質調査の方法） 	Mr. Mike Rowe
3/30 (木) 8:02	Hendersonville Middle School	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・共同研究の推進に関するミーティング（教材・教具や実験に関する恒常的な交流） 	Mr. Mike Rowe
3/31 (金) 8:02	Hendersonville Middle School	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・今後の共同研究及び学校間交流の可能性について 	Ms. Polly Crabtree Mr. Mike Rowe

(3) 研究の成果と考察

今回の渡米により実現した意見交換や相手校の実態把握を行ったことで、これから開始する日米の理科における教育プログラム及び教材の開発について準備が完了したといえる。したがって、まず米国側が新学期を迎える8月までに、両校において調査環境を整え、9月より水質調査を通じた交流活動をインターネットやビデオレターを用いて実施することとした。

また、日米の理科授業における実験・観察の教材については、それぞれの国で開発・使用されている新しい教材が国境を越えてあまり知られていないことが明らかになった。このことから、自国の中で積極的に利用している新しい教材を日米間で恒常的に交流することにより、日米双方の理科の授業を一層効果的かつ深まりをもたせることができると考える。さらには、本

校と Hendersonville Middle School とがこの教材交流の拠点校となり、他校にその情報を提供できるセンター的な役割を担うことも視野に入れる可能性があると考ええる。

(4) おわりに

現在、日本は学習指導要領の改訂とともに、大きな教育改革の流れの中にある。また、ノースカロライナ州も教育改革を推進し課題の克服をめざして取り組んでいる最中である。これら教育改革は、今後両校にも大きな影響を及ぼすことが予想されるが、今回のパートナーシップを機に、両校にとってよりグローバルな視点で学校現場での教育改革が実施できるような交流活動を、今後さらに発展させていきたいと考える。

グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト 米国現地研修ジャーナル（2000年3月24日－4月6日）

鳴門市北灘中学校 教諭 松浦和也

3月26日（日）

Brown Cafeteria で朝食をとった後、Clingman's Dome へ出かける。山頂からの風景は絶景で、駐車場から少し山頂を目指したが、途中コーディネーターの Loisさんが足を痛めるというハプニングがあり、すぐ引き返す。次にPioneer Villageを訪れる。開拓時代の建物が復元され、当時の生活がパネルで紹介されていた。昼食後、Cherokee Museumを訪れた。博物館内には入植時代の歴史にふれることができた。参加者と話をする中で、これから交流を深める中で、このようなアメリカの歴史と日本のアイヌ民族との比較をしてみてもどうかということが出た。国際交流というと英語教師がその担当となることが多いが、他の教科担当の教師も加わり、いろいろな角度からテーマを持って交流を進めた方がいいのではないかという意見が聞かれた。

夜、歓迎レセプションに出席。WCUの学長、市長、下院議員の列席のもと、行われる。昨年の6月に本校を訪問したLisa Greeneに会う。今回の訪問で彼女の学校を見学させていただくので、その件について話した。また、彼女のクラスで行う書写の授業の準備物などの確認を再度行った。また、Lisaの近くの学校に勤めるKristy Kowalskeとも話した。私が「I can't speak English.」を連発していると、ほとんどのアメリカ側の参加者は「I can't speak Japanese.」と返し、屈託なく笑顔でゆっくりと話してくれた。交流を図るためには流暢な英語も必要であろうが、このような前向きな相手に関わろうとする姿勢が必要であることを教えられた。しかし、英語の渦に巻かれ、少々疲れた。

3月27日（月）

North Carolina Center for Advancement of Teaching (NCCAT) を訪問した。ここは現職の教員の研修所のようなところである。NCCATの施設、設備を見学させていただいた。このような施設はアメリカでも珍しいと言われていた。トレーニングルームやコンピュータールームなど大変充実しており、美しいもので

あった。本県の施設とは大違いである。また、施設内でスライドを見せていただき、具体的な活動内容を教えていただいた。州、校内で最優秀教師が選ばれるらしく、教師を評価する目の厳しさに驚いた。この施設では体験学習を重視する傾向があり、その点においては日本の教育と同じような価値観を持っているのではないかと思われた。また全米では統一テストが行われ、生徒がよいスコアをとるために努力する教師についても語られ、体験学習重視を言いながら、評価はやはりテストになるとか少し考えさせられた。施設見学の後、Dr. Huleyによるアメリカの教育をスライドで説明していただいた。米国の教育の特徴は日本のように中央集権ではないということだ。それぞれの州が独自の指導要領を持ち、それを実施している。ただし近隣のカリキュラムはよく似ているらしい。米国では教師と同じくらいの数のスタッフ（図書館司書、カウンセラー、心理学者、障害者アシスタントなど）がいる。また、興味深いのはHidden curriculumというもので、日常生活のしつけなどの生活指導のことである。日本でもしつけを学校で、ということが当たり前になりつつあるが、米国もこのような傾向なのだろうか。

その後、Fairview Schoolを訪問した。教室はオープンスペースであった。幼稚園から8年生までの学校である。教室内の各コーナーにはコンピュータが置かれていた。学校取り組みなども説明していただいた。ここでは野外学習を行っていて、森林などを開拓するというものであった。もちろん、この活動は子どもや教師だけではできるはずもなく、指導者を呼んだり、保護者がたくさん参加するらしい。保護者が大変協力的であるということであった。本校でも底引き網の体験学習などでは保護者の方に船を出していただいたり、魚の料理を地元の漁師の人を招いて教えていただいたりしている。特別活動等の活性化のためにはやはり保護者や専門家、地域の人々の協力が必要であること痛感した。また、ここのクラスでは生徒は各クラス20名程度で、担任教師は2名配置という。少人数の生徒を複数の担当教師が見るといのはやはりとても大事な

ことではないだろうか。

午後、Smoky Mountain High Schoolを訪問した。ここは実業高校で、広大な敷地に広々と施設が建てられていた。コンピュータールームなどの各教室を見学させていただいた。溶接や自動車の解体なども行われていた。また、サテライトシステムのようなものも設置されており、遠隔地の生徒とのテレビ会議が行えるような教室もあった。施設の大変充実していたことに驚かされた。見学のあと職員の方と話す場が持たれた。その中に教育実習に来ている教生の方の話を聞かせていただいた。大学での1年のインターンが終わると、現場へ出ていくそうだ。州によってはたくさんの試験をパスしなければならないところもあるらしい。それが昇級と密接に関わっているそうだ。

3月28日(火)

下記のようなスケジュールであった。

Thursday, March 28:

- 7:30-8:00 Mr. Matsuura arrives at FRMS. Ms. Dan Askew, the translator, will be accompanying Mr. Matsuura from 7:30 until 10:30. Mr. Matsuura, Mr. Askew, and Ms. Greene will meet in the conference room (or the teacher workroom if conference room is unavailable) to plan for the day and general schedule for the week.
- 7:55-8:10 Official school welcome by Extremely Awesome Eagles team and administration. Ms. Greene, Ms. Barker, and a student representative will say a few words of welcome, and present Mr. Matsuura with a gift from the school.
- 8:10-9:00 Mr. Matsuura tours the school with Ms. Barker, Mr. Askew, and a student representative.
- 9:00-9:44 Matsuura observes the remainder of Ms. Greene's first period class and first class and first class change.
- 9:47-10:35 Mr. Matsuura observes Ms. Adams or Mr. Cowan (with translator)
- ** Mr. Askew may leave at 10:30am.
- 10:35-11:20 Mr. Matsuura observes the other

team member (Adams or Cowan, without translator).

- 11:23- Student representative takes Mr. Matsuura to lunchroom and assists him getting lunch.
- 11:30-Noon: Lunch (in lounge? in cafeteria?)
- Noon-12:15 Relax/Break
- 12:15-1:24 Mr. Matsuura in Ms. Greene's classroom observing.
- 1:24-2:12 Mr. Matsuura and Ms. Greene visit various classroom for observation. These observations will be cursory (not longer than 10 minutes) and will precede longer observations on Wednesday or Thursday. I would like to give Mr. Matsuura a "feel" for our school, then allow him to select where he would like to do more intense or lengthy observations.
- 2:12-3:00 Mr. Matsuura to Ms. Greene's classroom for miscellaneous planing, demonstration of grade keeping practices, reflection on the day, question, etc.

Ms. Greene is responsible for transportation to and from the Waverly Inn in downtown Hendersonville, where Mr. Matsuura is staying.

この日は主に施設、授業の見学であった。登校後すぐに通訳のDan(教育関係のことにも詳しい彼は大変丁寧に通訳をしてくれた)と校長に会い、また体育館で歓迎式のようなものが行われ、学校のグッズであるポロシャツとカップをいただき、生徒に紹介された。そのあとの施設見学では技能教科が行われている教室を訪問した。家庭科(裁縫)の授業、音楽科(オーケストラ)の授業、体育科(バスケットボール)、美術の授業、(ドリームキャッチャーの製作)を見学した。授業中にもかかわらず、どの先生方も私のために時間を割いてくれ、学習内容を詳しく説明してくれた。私が遠くで見ていると、作業を中止してわざわざ生徒の近くに来るように言ってくれた。日本の中学校と違い、教師が自分の教室を持っていた。

その後、Lisaのクラスの授業を見学した。彼女の担当は8th gradeある。全校生徒は約750人。8th gradeの生徒は約240人であるが、それを3クラス編成にし、約80人の生徒を3人の教師がチームを組んで担当する

のがこの学校の特徴である。Lisaとともにチームを組んでいるのが、英語担当のMs. Adam、数学担当のMr. Cowanである。Lisaは社会、理科を担当している。私は8th gradeのLisaチームのクラスを見学した。どの授業ともに講義形式のものが多く、英語、数学ではOHPを用い、教師はチョークを持って板書するのではなく、OHPのシートに直接記入をしてそれを提示する方法であった。生徒の間からは頻繁に質問する姿勢が見られ、黙って聞いているという様子はなかった。また、生徒間の私語もほとんど見られず、私語をしていたものは厳しく注意を受けていた。もう少し、生徒がにぎやかに授業を受けているという印象があったので、驚いた。生徒の授業態度への指導の厳しさが印象的であった。

昼食は玄関に入ってすぐのランチルームでとった。Lisaは生徒が賑やかなので、ラウンジで食事をするように勧めてくれたが、生徒と一緒にランチルームでとることにした。彼女が言うほど騒がしくなかったように思う。生徒が食べている間も生徒の方を気にしているようであった。食事は生徒、教師は別々のテーブルでとっており、様々な先生が気さくに話しかけてくれた。

午後からは選択教科の見学であった。ミュージカルの練習をする生徒、オーケストラで器楽演奏をする生徒、美術作品をする生徒と様々な教科が用意されており、それぞれ担当教師、活動する教室があった。短い見学のあとはLisaと明日の予定について打ち合わせを行った。

3月29日(水)

Wednesday, March 29:

7:40 Mr. Matsuura arrives at FRMS with Ms. Greene.

8:15 Mr. Askew to arrive at FRMS. Mr. Matsuura to present Powerpoint presentation to Ms. Greene's first period class. Follow up question and answer session for students via Mr. Askew.

9:47 Mr. Matsuura to present Powerpoint presentation to Ms. Greene's second period class. Follow up Q&A session by Mr. Askew.

** Mr. Askew may leave at 11:15.

11:30-12 Noon: Lunch - a student will again be assigned to assist Mr. Matsuura.

12 Noon Mr. Matsuura to present Powerpoint presentation to Ms. Greene's third period class. Maybe a Q&A session if Mr. Matsuura and Ms. Greene manage.

1:24-3:00 Extended observations of exploratory and PE classes (of Mr. Matsuura's choosing).

この日は主に私の学校の紹介を行い、そのあと質問を受けるような形の授業をLisaと私(途中までDanが通訳してくれた)で行った。彼女の学校のプレゼンテーションソフトが私のデータを読み込まず、スライド提示ができないとハプニングに見舞われた。仕方がないので、別に用意していた動画のみをまとめたビデオを見てもらい、質問を受けることにした。給食、掃除、静かな授業風景には不思議であるという声が聞かれた。生徒は大変積極的に質問し、日本の卒業式はどのようなものであるか、生徒はどれくらい勉強するのか、など聞かれた。特に給食と掃除は大変珍しかったらしく、生徒はみんな清掃をするのか、まじめにしているのか、などという質問が次々と出された。また、私のクラスの生徒がLisaのクラスの生徒と手紙や電子メールのやりとりをしているので、私の生徒のビデオレターを見せた。これには大変興味を示していた。あと、けん玉や紙風船などのおもちゃをプレゼントし、遊び方を説明した。生徒は大変興味を示し、けん玉に何度も挑戦している子もいた。遊びは世界共通ものなのだと感心した。

3月30日(木)

Thursday, March 30:

7:40 Mr. Matsuura arrives at FRMS. Mr. Matsuura will be conducting Japanese calligraphy in Ms. Green's classroom. Mr. Askew will be at FRMS from 8:15-11:15.

11:30-Noon Lunch

Noon-1:24 Mr. Matsuura to conduct calligraphy classes.

1:24-3:00 Mr. Matsuura to observe and participate in exploratory and PE classes.

この日は書写の授業を行った。これは私がLisaの学校を訪問することが決まったとき、彼女が強く希望し

たので、引き受けた。昨年6月に彼女が本校を訪問したとき、私が書写の授業を行い、彼女にも参加してもらい、いたく彼女が気に入ったためである。道具類の準備は事前にメールで連絡を取り、筆、紙、墨汁は準備してもらった。硯は紙コップを代用し、下敷きは新聞を使った。生徒には「日光」という中学校1年生の課題を与え、日本で行うような授業形式で進めた。Danが通訳をしてくれ、彼は生徒の個別指導も行ってくれた。全員が書写をするのは初めてであったので、私自身も大変新鮮な気持ちで授業ができたように思う。課題のあとは私が生徒に色紙を渡し、好きな漢字を書くようにした。生徒から好きな言葉をいってもらい、それを漢字に直し、書くようにした。「愛」「犬」「平和」など様々なものがあがり、大変積極的に生徒から質問があったので、対応におわれた。また、その生徒の姿勢に圧倒された。途中、カーペット(教室の床はフローリングではなくカーペット)の上に墨汁をこぼすというハプニングもあったが、すぐに清掃担当の方が掃除機を持ってきて掃除をしてくれた。生徒は掃除の様子もなく、不思議に思った。私が教室でこのようなことが起こったら、まず、生徒も一緒に掃除をする。生徒にはさせないのか、と質問しようと思ったが、そのとき私は「I'm sorry.」を連発していたので、忘れてしまっていた。Lisaは「なぜあなたが謝るのか、子どもがしたことよ」と軽く受け止めてくれた。

3月31日(金)

Friday, March 31:

- 7:40 Mr. Matsuura arrives at FRMS.
- 9:25-9:44 Ms. Greene's room for origami by Matsuura
- 9:47-10:20 Ms. Larate's Language Arts observation, 7th grade.
- 10:25-10:35 Break
- 10:35-11:30 Ms. Greene's room for origami.
- 11:30-12:10 Lunch and break
- 12:15-12:45 Ms. Greene's room for origami.
- 12:50-1:20 Ms. Duncn's room for Language Arts observation, 6th grade.
- 1:30-2:40 Various observation throughout school.
- 2:45-3:00 Farewell assembly in Media Center

by Greene's team

この日は折り紙をした。鶴を折った。大阪教育大の米川先生もこの日は参加していただき、生徒に教えてくださった。折り紙をしたことのある生徒はおらず、作業は思うようにははかどらなかった。それでも生徒は大変熱心に取り組み、なんとか完成させた。わたしは折り紙を簡単なものだと考えていたのだが、生徒は大変作るのに手こずって、完成しない子もいた。折り方をできるだけわかりやすく途中過程を前に提示するようにと米川先生にアドバイスをいただき、幾分スムーズに作業を進めていたのだが、それでもはかどらなかった。初めて経験することは本当に難しいものなのだとということがよくわかった。わたし自身これまでの授業の中で自分ができるから生徒もできるだろうと思っていたことも多かったように思う。この経験はこれからわたしの授業に大きく影響を与えるものだと思う。できる限り工夫をしてわかりやすく指導することの必要性を再確認した。

午後からは国語科の授業について作文指導を中心に英語の先生に説明していただいた。1週間にひとつ、また、読書指導では州からたくさん課題が出され、それをクリアしていくとポイントが得られるというシステムをとっていた。読み終わった本の内容を問う試験があり、それをパスするとその本の内容を理解しているということになっていた。ここでもコンピュータが大いに活用されていた。

4月1日(土)、2日(日)

Lisa Greene夫妻のお宅のホームステイ。近くの自然公園やその他史跡などを見学した。

4月3日(月)

Exploris Middle Schoolを訪問した。この学校は非営利的学校で、1985年に活動を開始し、翌年にチャーター校として認められた。博物館の教育機関としての学校で教師は博物館の職員である。職員の50パーセントは教員免許を持っていない。カリキュラムは州の指導要領準拠が免除され、自分の関する10の質問、自分の州に関する10の質問を生徒に考えさせ、世界をテーマとして教師がまとめて学習していくようにしている。この学習の成果が見られるかどうかを5年に1度チェックしている。読み書き、数学の試験ではいい成

績を残している。第2言語のスペイン語、フランス語、グローバルアート、creative artを学ぶ。午前は教科として取り上げられている数学、総合された他の教科を行う。午後は1対1の学習で自分の課題に取り組むようになっている。国語、文法はワークショップ(20分)で行う。8th gradeでは物事の始まり、科学の始まり、学校の始まりという3テーマを学習する。これはすべてで学習する。そのアプローチの仕方は様々で個に対応している。基礎学習にプラスして、批判的なものの見方、自立的な考え方ができる、いろいろな人を考えてあげられる人(世界市民)をするように言われている。評価は相対評価は行わず、自己評価を2週間ごとに行う。年4回家庭に報告書(チェックリスト)を送る。それにはskillや行動が書いてあり、それが入れている。それら生徒の学習成果なるものをまとめて置いて、親を呼んで懇談もある。そして、親がチェックをしてから学校へ返す。報告書はセクションごとにまとめられている。

入学は抽選により、学力差は大きい。23パーセントの生徒は学習障害をもっている。25パーセントは英才である。多様なニーズに応え、他の州にはほとんどなく、親が子の学校を選んで入学させるケースが多い。

プログラムについて生徒、親の反応は好んで通わせている以上、好意的である。アンケートにも答え、行事にも参加している。

その次にノースカロライナ州教育局訪問した。North Carolinaでは幼稚園から高校まですべての学校でコンピュータを学ぶカリキュラムが組まれている。8th grade卒業時にはskill testがある。NCで教員になるためには生徒同様教員もパソコンのスキルが必要になる。NCでは各教室でインターネットにアクセスできるようにし、いかに便利であるかを学ばせている。教師のためのサイトなどもある。Student Accountability Standardsについて。1995年から始まる。これは前年度から次年度に書けて成績がどのように伸びるかを計算式に入れ、その伸びを達成した学校にボーナスを出し、伸びを達成できなかった学校にはassistance teamを送り、学校側に研修をさせ、援助をする。初年度は伸びの悪かった学校数123、2年後は32、3年後は15という優れた成果を収めている。しかし次の段階に行くための見通しも忘れていない。白人生徒にくらべ、少数民族、黒人のマスターの割合の低さの原因を考える必要もある。どこにassistance入れる必要があるかを考えなければならない。